

大玉中学校1年 矢崎 友里

本宮高等学校1年 石川 直生

南達交通安全新聞

年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動

運動期間 令和4年12月10日(土) ~

令和5年1月7日(土)までの29日間

運動スローガン

「くらいとき じぶんをアピール ぴっかぴか」

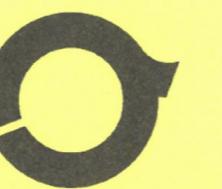
運動重点



- (1) 道路横断中の交通事故防止(特に、高齢歩行者の保護の推進)
- (2) 夕暮れ時や夜間の交通事故防止
- (3) 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- (4) 飲酒運転の根絶
- (5) 自転車の交通事故防止と適正な利用の推進



第33回 南達交通安全大会



南達一市一村にあっては、交通量が増加しており、これに伴い交通事故の発生も増加する可能性を持っています。

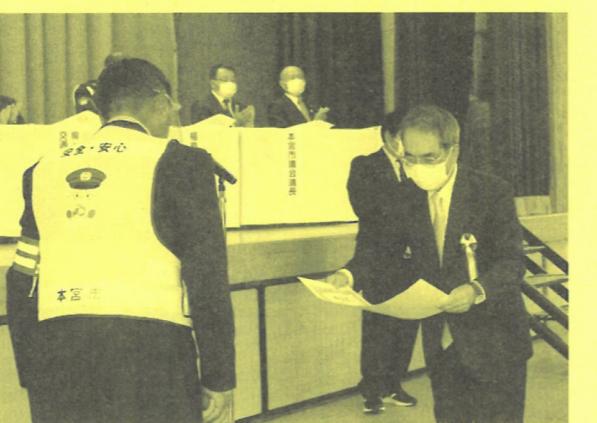
さらに、高齢化社会を迎えるにあたり、全国的にもお年寄りの犠牲者があとを絶たないことから、事故防止のための抜本的対策を講じる必要性に迫られています。

本大会は、このような情勢をふまえ、南達一市一村が一丸となって総合的な交通事故防止対策を推進することを目的とし、令和4年11月12日(土)に大玉村立大玉中学校の体育館で開催されました。

大会では、交通安全功労者や地域別交通事故防止コンクールの受賞者に、賞状等が贈られたほか、交通安全作文コンクールで最優秀賞を受賞した子ども達が作文の発表を行いました。



～受賞者代表謝辞を述べる 日下部 剛さん～



～交通安全功労者表彰を受ける 国分 真一さん～



～南達交通安全大会の様子～

南達交通安全対策連絡協議会

本宮市・大玉村交通対策協議会 郡山北警察署本宮分庁舎

私は忘れません。真冬の朝、いつもと変わらず、家を出た、それが最後になってしまった悔しさと悲しさを。

私の祖母は、五年前に交通事故で亡くなりました。反対側に行こうと道路を横断していた時、車検証を車の床に落として拾おうとよそ見をしていた車にはねられました。児童クラブで、祖母が交通事故にあったと聞き、病院で、のどが痛くなるくらいさけんで、泣きました。いつも家に帰ると、私と弟が大好きな料理を作ってくれていました。その料理が突然食べられなくなる、もう会えなくなってしまうと思うと、頭が真っ白になりました。

車を運転していた方は、きっと、ちょっと前を見なくとも大丈夫だろうと思い、車検証を拾ったのだと思います。ちょっとの油断が大きな事故をまねいてしまい、二度と取りもどせないものが失われてしまつたのです。それは、事故を起こした人だけではありません。誰にだって、「ちょっとだけなら」と思い、気がゆるんでしまうことはあると思います。私も、朝はいつも余裕がないで、自転車での登校でつい、周りを見ずにスピードを出して走つたり、どうせ誰もいないからと油断してよそ見をしてしまつたりしてしまいます。でも、それはすごく危険だと思いました。周りの車や自転車には危ないなど不満を持つこともあるのに、結局私も油断している、同じことをしていると思うと、はすかしく思いました。これで事故を起こしたらきっと、祖母が悲しんでしまいます。

ちょっと気を抜いても、必ず事故が起きるわけではありません。しかし、その積み重ねで、どんどん危険になつていきます。早く、楽に移動するために、自動車や自転車はとても便利です。でも、油断すると、思いがけない事故につながり、相手も自分も深い傷を負うことになります。そのようなことを少しでも少なくするために、自分のこと、周りのことを想像して、「かもしれない運転」を大切にしながら運転すべきだと思います。また、一人一人が責任を持つて運転すべきだと思います。私の母は、ちょっと自転車で出かけるときでも毎回のように、「自分が悪くなくても、事故は起るからね。」

と言います。そのようなことをなくすためには、一人一人が、判断を間違えると事故を起こしてしまうと意識して、責任とやりを持つていいと思います。私も、これからは、時間に余裕を持って、周りに気をつかい、自分が事故にあることも、事故を起こすことも絶対ないようにします。家族や、祖父、祖母に成長を見てもらうために。

最近はスマホを持つ人が増えてきました。歩きスマホやながらスマートフォンをおこす原因になってしまいます。命は一人一つ、なくしてはいけない物です。一人一人の少しの意識だけでたくさんの尊い命が助かります。私も歩きスマホに注意したり、横断歩道や道を渡る時は左右を確認して渡つたりと、少しの注意を意識しながら生活していきたいと思います。家族の中にもながらスマホをしていて不注意のままの運転をしていたらしつかり注意して大切な命を守つていきたいです。

他にも自分の地域に危険な場所はないか、どうなつたらどのような事故がおこるのかを考えながら自分の生きる事を考えていきたいです。あとは、子供は大人を見て成長するので、小さい子のお手本となれるように生活していきたいです。

